

「地域での暮らしをどう支えるか ～重度知的障害者のグループホーム～」

- ◆日時：6月14日（土）14:30～17:00（定例総会後開始します）
- ◆会場：港区立障害保健福祉センター7階 竹芝小ホール（地図下記）
- ◆課題説明 「地域での暮らしを支える制度と課題」
柴田洋弥（サポート研顧問・日本自閉症協会・東京都発達障害支援協会）
- ◆事例報告発表
藤内昌信（サポート研会員・ともにネット・東京）
森下浩明（サポート研会員・みなと舎・神奈川）
中西昌哉（サポート研会員・ベテスタの家・京都）
- ◆参加費：サポート研会員は無料 それ以外の方は2,000円（資料代など）

この4月から、グループホームにケアホームが一元化され、「介護サービス包括型」と「外部サービス利用型」に分かれ、さらに「サテライト型」が設けられました。また、夜間支援体制加算も夜間実態による加算に改められました。しかしこれらのグループホーム単価だけで、多くの支援を要する障害者、特に自閉症を伴うような重度知的障害者の生活を支えていくことには困難があります。そこで土・日曜日に移動支援を利用したり、土・日曜日にも生活介護事業の支給決定（月30日）を受けたり、各地でさまざまな工夫が行われています。また従来経過措置として施行されてきた「重度者の個人単位のホームヘルプ利用制度」は、「介護サービス包括型」の中で、新規利用も含めて「当面の間」認めるとされています。この制度は、身体障害者には比較的適用されやすいようですが、先進市では重度知的障害者にも月に200時間を超える身体介護が支給されて、利用者1人あたりの生活介護+グループホーム+身体介護の総支給額は、年間1000万円を悠に超えています。

このシステムの利用者は全国ですでに1000人に達しており、厚労省も「これを廃止する予定はない」と説明していますが、これを本格的な制度にしていくことが求められます。厚労省は、平成27年度～29年度の3年間に、ショートステイとグループホームを合わせて定員20人以内のやや大きい地域生活支援拠点を、全障害福祉圏域または市町村に設置する計画を進めています。また、重度訪問介護の知的障害者への適用も始まり、単身生活への支援も進みそうです。大都市部では重度知的障害者の暮らしの場が圧倒的に不足しています。このような中で、今回は特にグループホームを活用して地域での暮らしを支えるには具体的にどうすればいいかについて、共に考える機会にしたいと思います。

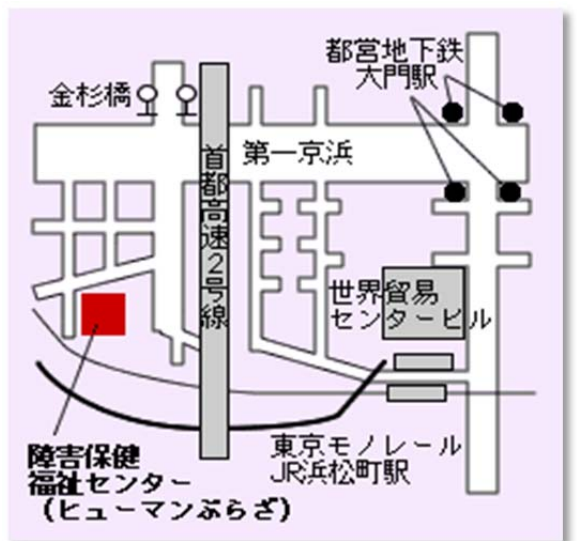
多くの皆様のご参加をお待ちしています。

【当日のプログラム】

- 14:00 受付開始
 - 14:30 開会あいさつ 赤塚光子（サポート研会長）
 - 14:35 課題説明 柴田洋弥
 - 15:20 発表 藤内昌信
 - 15:40 発表 森下浩明
 - 16:00 発表 中西昌哉
 - 16:20 討論
 - 17:00 閉会
- 総合司会 坂田晴弘（サポート研副会長・国分寺市障害者センター・東京）

申し込みはこのままFAXして下さい。定員を超えた場合のみご連絡いたします。0467-54-5498（事務局村尾宛て）

ご不明の点などありましたらサポート研ホームページからメールにてご連絡ください。



お名前	所属事業所名（法人名）
所属（記入または○をつける）	① 正会員（第 研究会 ・所属研究会なし） ② 情報会員 ③ 会員ではない
連絡先	電話 メール